

北海道中小企業家同友会景況調査報告 (2019 年 1～3 月期)

文責：大 貝 健 二

札幌市豊平区旭町 4-1-40 北海学園大学経済学部

TEL:011-841-1161/E-mail:ogai@econ.hokkai-s-u.ac.jp

水面下ながら景況感の改善

—全国の景況感とはコントラストを描く。その要因は？—

2019 年第 I 期（1～3 月）の北海道中小企業家同友会の業況判断 DI（前年同期比）は、マイナス 4.7 であった。前回調査のマイナス 10.4 から 5.7 ポイントの改善であるが、依然として水面下での推移である。次期についても引き続き改善の見通しであり、とりわけ建設業での改善見通し幅が大きくなっている。

しかし、業況判断 DI の推移を日銀短観や中同協 DOR（速報）と比較すると、真逆の動きになっていることが確認できる。つまり、短観や中同協 DOR では今期の業況判断 DI は、2～4 ポイント悪化していることに加え、短観では、次期も 5～8 ポイントの悪化化見通しとなっているのである。このコントラストはどのように理解すべきなのか、4 月 11 日に行われた分析会議では大きな論点となった。

景況調査における集計結果から導き出せる見方は、次の点である。今期は仕入単価 DI が低下し、他方で販売単価 DI が若干上昇したことが、採算の改善、業況判断の好転に結びついたとする見方である。しかし、1 人当たり売上高 DI はやや悪化、1 人当たり付加価値 DI はほぼ横ばいであることや、業種別に見て、今期の景況感の改善を牽引した建設業、製造業でさえ、主要項目において好転、悪化が入り混じっていることから、今期の水面下ながらの景況感の改善は、継続的なものと見られるほどの好材料を持ち合わせていないと捉えている。さらに、中同協 DOR 速報でも指摘があるように、米中貿易摩擦、中国経済の減速、ブレクジット問題などについても、間接的に景気には影響を及ぼすと考えられるため、国内外の動向にさらなる注視が必要であると思われる。

今期の経営上の問題点では、前回調査に引き続き、「人」に関する項目（「従業員の不足」、「人件費の増加」）の割合が高い。「仕事はあるが、マンパワーが足りないために獲れない」、「企業間での人材の移動が顕著である」といった意見が分析会議の中でも出てきており、人に関する諸問題が企業経営に対しても大きな足かせとなっている。働き方改革が政策的にも進められるなかで、企業の生命線である人材をいかに確保し育てていくのか、同友会運動の中で経験交流の場を増やすなど、継続的に真摯に取り組むべき問題であろう。

最後に、分析会議の中では、地域間での景況感が対照的であるとの指摘も相次いだ。例えば、北海道の景況感は、建設業の動向によって左右される側面が少なからずある。そのなかで、新幹線や高規格幹線道路の建設が続いている地域とそうではない地域の差異、2 年前の豪雨や昨年の震災による被害があった地域とそうでは

ない地域とのギャップが少なからず存在する。そのため、北海道全体の動向を把握することも重要であるが、景況調査をより身近なものにしていくためにも、地域別の動向も捕捉していくことが重要ではないかと考えている。次期調査からは、さしあたり道央（札幌・しりべし）、道東（とちち・釧路）、道南（函館・日胆）、道北（あさひかわ・北見）の4区分の地域別動向も併せて示していきたい。

《景況調査について》

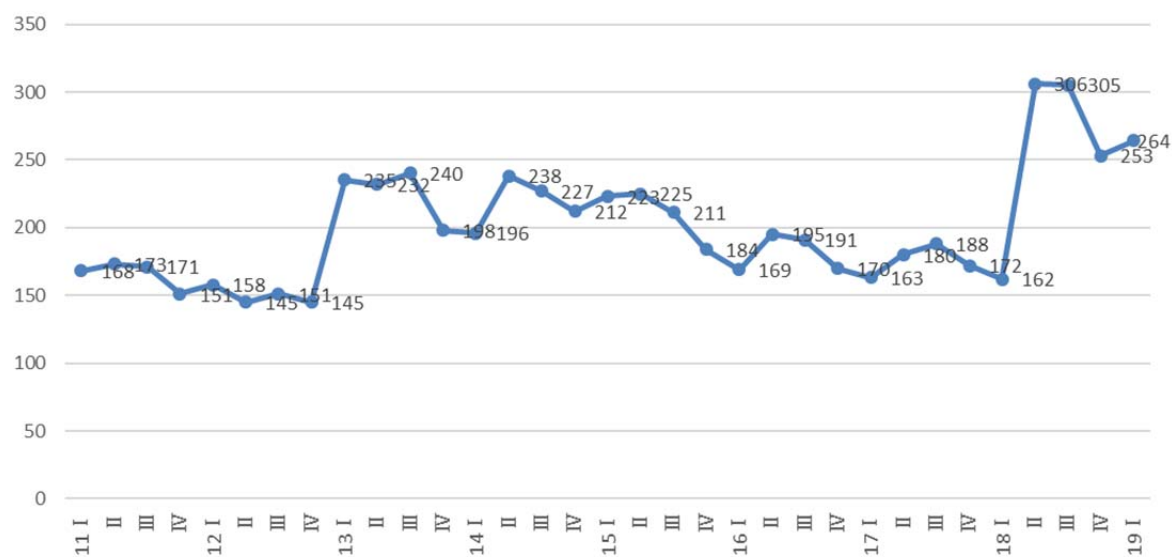
- ・景況調査は、**回答者の意識・マインド**を基に景気動向を分析する調査です。
- ・特に、同友会が実施する景況調査は、**経営者の意識を反映**するものであるため、**景気動向がはっきりと表れやすい**と言われています。
- ・景況動向、および「次期見通し」を**自社の経営指針等の見直し等**に活用してください。

《DI 値について》

- ・DI 値は、「良い」と回答した割合（%）から「悪い」と回答した割合（%）を引いた数値です。
- ・「良い」と回答した企業が多ければ多いほど DI は高水準で推移するが、その逆もしかり。
- ・景況調査では、**（1）DI 値の水準（プラスかマイナスか、また水準はどの程度か）、（2）前回調査からの好転幅、悪化幅の大きさ**を主に見ていきます。
- ・DI 値の変化幅について
 - ①1 ポイント以内の場合：「**ほぼ横ばい**」と表現します。
 - ②1～5 ポイントの場合：「**やや**」という言葉が、好転・悪化の前に付きます。
 - ③10 ポイント以上の場合：「**大幅な**」という言葉が、好転・悪化の前に付きます。

【回答企業数】

回答企業数



地域別回答企業数

	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
札幌	80	97	94	81	88	89	88	86	68	131	122	102	105
帯広	24	26	25	22	19	24	28	19	21	29	39	30	28
旭川	9	17	16	11	11	11	15	15	13	39	34	24	28
函館	9	13	11	10	6	10	12	13	9	27	26	19	20
釧路	16	16	15	19	16	19	18	16	18	30	27	29	29
北見	6	6	7	6	6	6	4	5	7	13	12	10	16
日胆	15	12	13	15	10	13	14	12	18	15	20	16	17
小樽	9	8	10	6	7	8	9	6	8	22	25	23	21
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サンプル数	168	195	191	170	163	180	188	172	162	306	305	253	264

業種別回答企業数

	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
建設業	34	37	42	39	35	36	39	38	35	62	69	56	60
製造業	38	49	44	37	41	47	45	40	42	75	76	68	67
流通商業	68	77	72	68	67	71	75	70	62	104	99	86	88
サービス業	26	30	31	25	19	25	28	23	23	60	56	38	43
その他	2	2	2	1	1	0	0	0	0	5	0	4	6
サンプル数	168	195	191	170	163	180	188	172	162	306	305	253	264

規模別回答企業数

	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
20人未満	56	70	61	54	59	61	65	63	63	113	113	102	110
20人以上50人未満	60	71	71	60	55	61	61	51	54	84	90	64	70
50人以上100人未満	28	30	29	31	28	30	29	31	22	52	53	37	44
100人以上	18	21	22	19	16	21	25	21	16	40	38	35	30
不明	7	3	8	6	5	7	8	6	7	17	11	15	10
サンプル数	168	195	191	170	163	180	188	172	162	306	305	253	264

1. 全体の動向

1-1. 業況判断DI（前年同期比）は水面下で5.7Pt改善：▲10.4から▲4.7へ（4期連続の悪化にはならず）

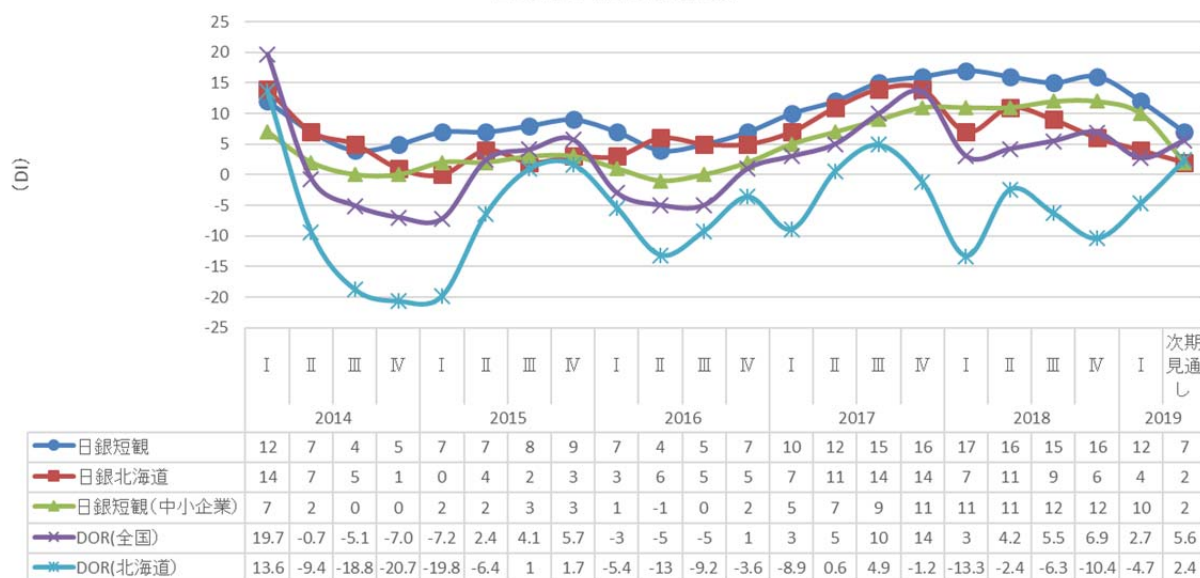
日銀短観（全国・全産業）は4ポイント悪化；短観（北海道）は3期連続悪化、中同協DORも4.2Pt悪化

※DI値は改善したが、それでもまだ水面下（マイナス）推移であるため、「良い」とはいえない

次期見通しは、短観で軒並み悪化見通し、特に短観（中小企業）で悪化幅が大きい

→海外経済の不安定化（米中貿易摩擦、ブレクジット問題）や減速の影響、先行きも慎重姿勢（日経新聞）

1. 業況判断DIの推移



出所：日銀短観、中同協DOR調査、北海道同友会DOR調査より作成。

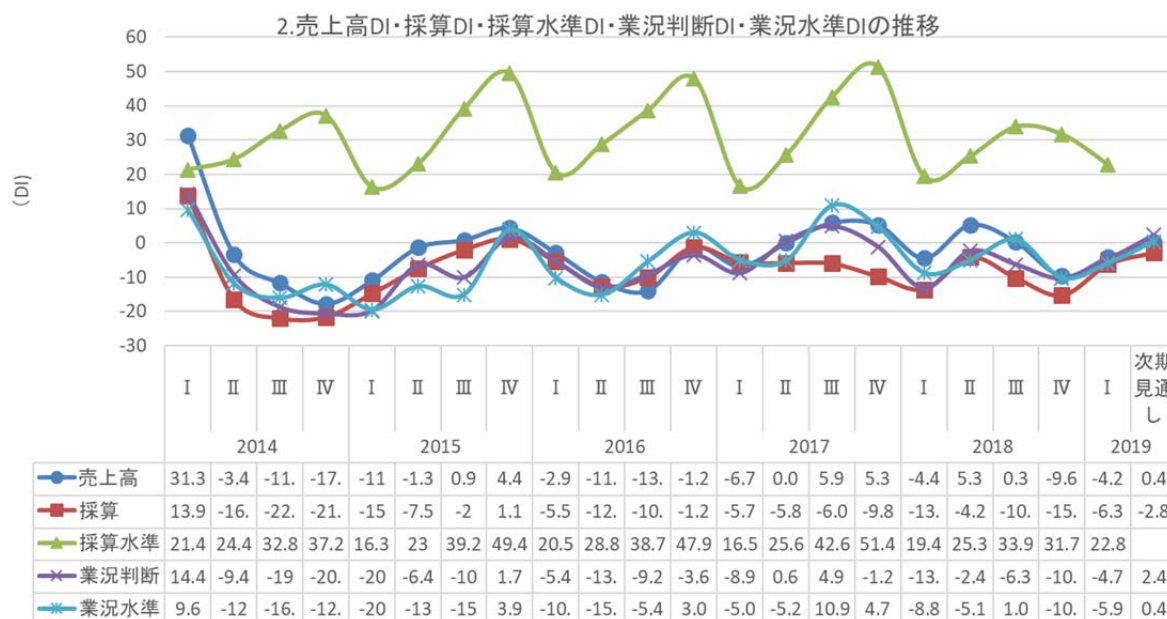
1-2. 売上高DI、採算DI、採算水準、業況水準（前年同期比）

【売上高】5.4Ptの改善（▲9.6→▲4.2）（次期：4.6Ptのやや改善見通し（▲4.2→0.4））

【採算】9.0Ptの改善（▲15.3→▲6.3）（次期：3.4Ptのやや改善（▲6.3→▲2.8））

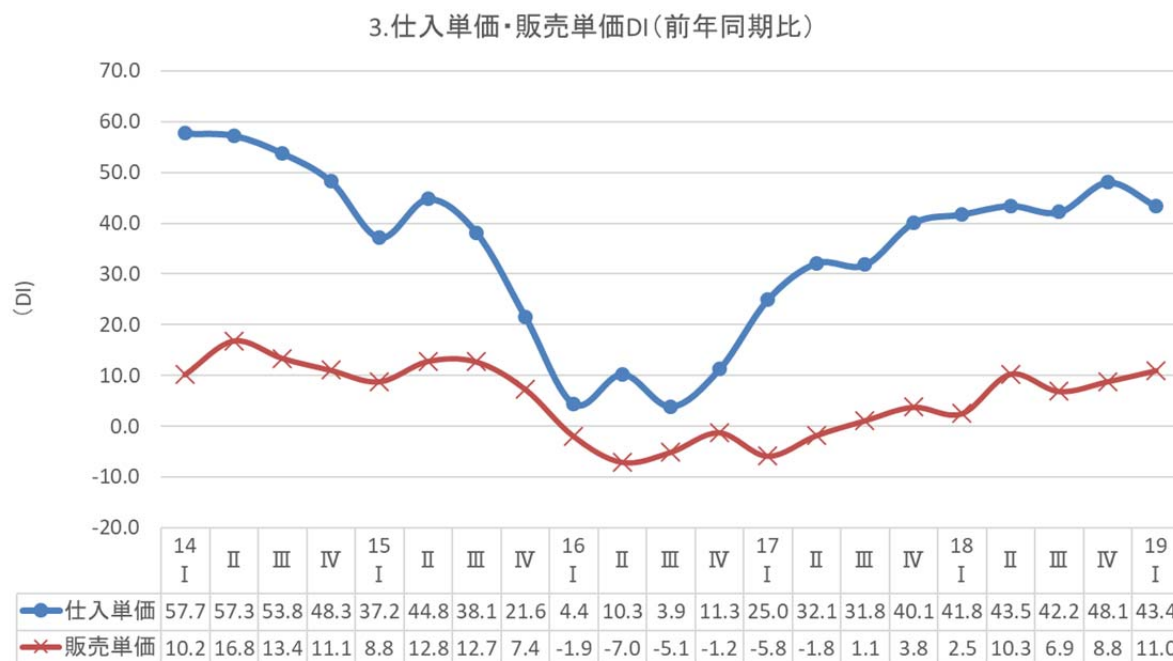
【採算の水準】8.9Ptの悪化（31.7→22.8）※グラフにすると、III→IV期の改善幅が小さいことが気になる

【業況水準】4.4Ptのやや改善（▲10.3→▲5.9）（次期：6.3Ptの改善見通し（▲5.9→▲0.4））



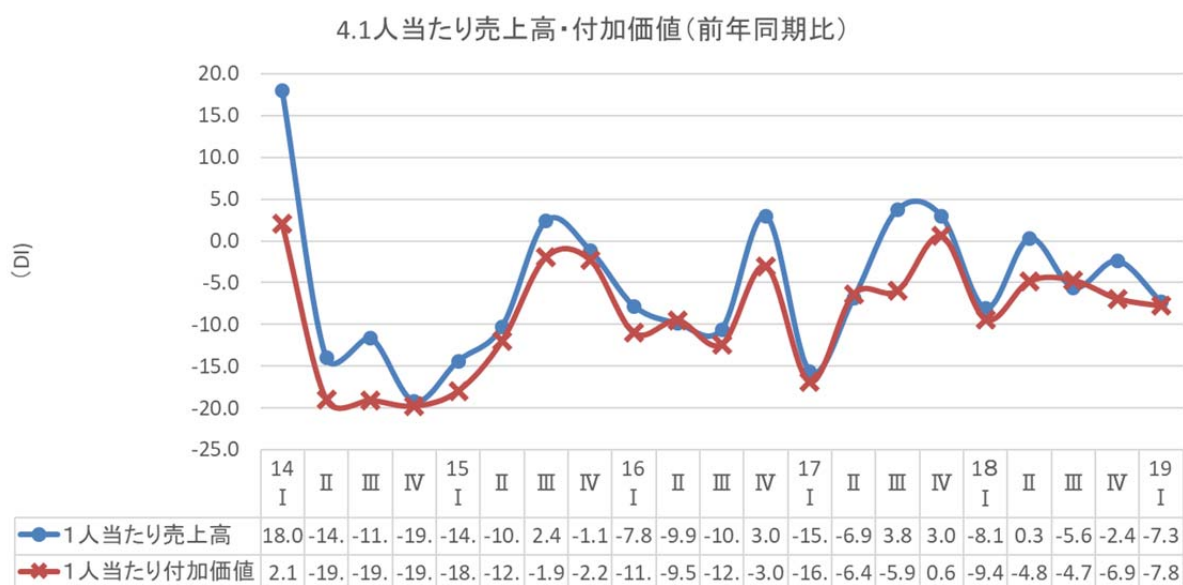
1-3. 仕入・販売単価

- ・仕入単価 DI：前回調査から 4.7Pt のやや低下を示す（48.1→43.4）※長期トレンドの確認
 - ・販売単価 DI：前回調査から 2.2Pt のやや上昇を示す（8.8→11.0）プラス 2 桁は 15 年Ⅲ期以来
- ※仕入単価 DI と販売単価 DI のギャップは 6.9Pt 縮小／次期の仕入単価 DI がどう動くか？



1-4. 1人当たり売上高、付加価値額

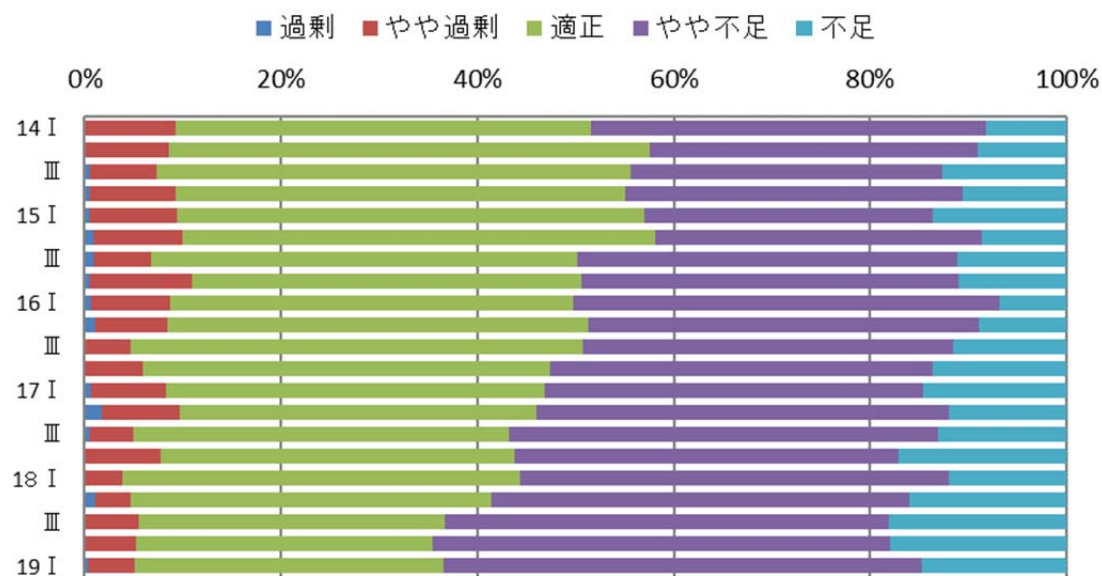
- ・1人当たり売上高：4.9Pt のやや悪化（▲2.4→▲7.3）
- ・1人当たり付加価値額：ほぼ横ばい推移（▲6.9→▲7.8）



1-5. 人手の過不足、資金繰り、設備の過不足

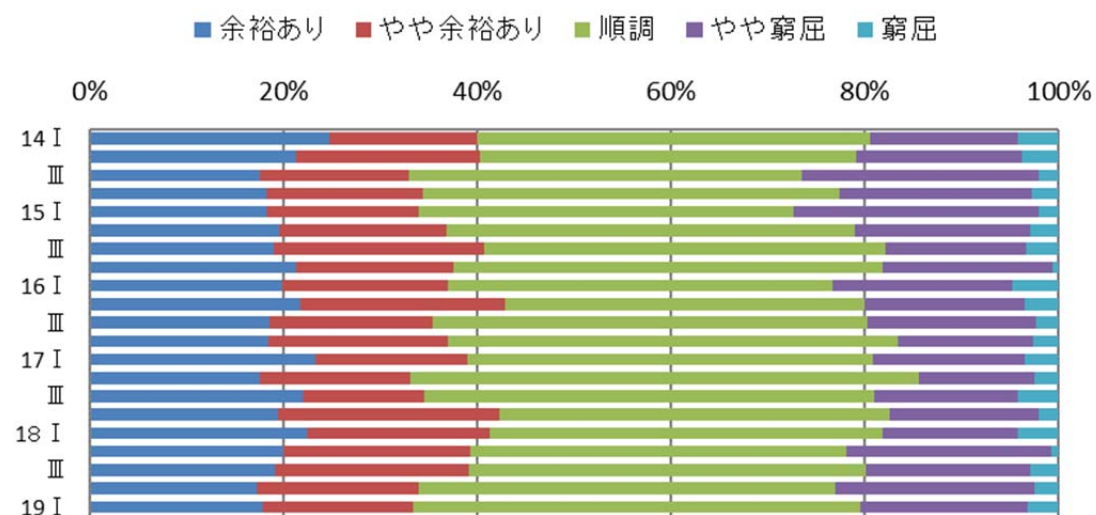
【人手の過不足】不足感（不足（%）＋やや不足（%））：63.4%（「不足」割合の高止まり）前回とほぼ横ばい

5. 人手の過不足



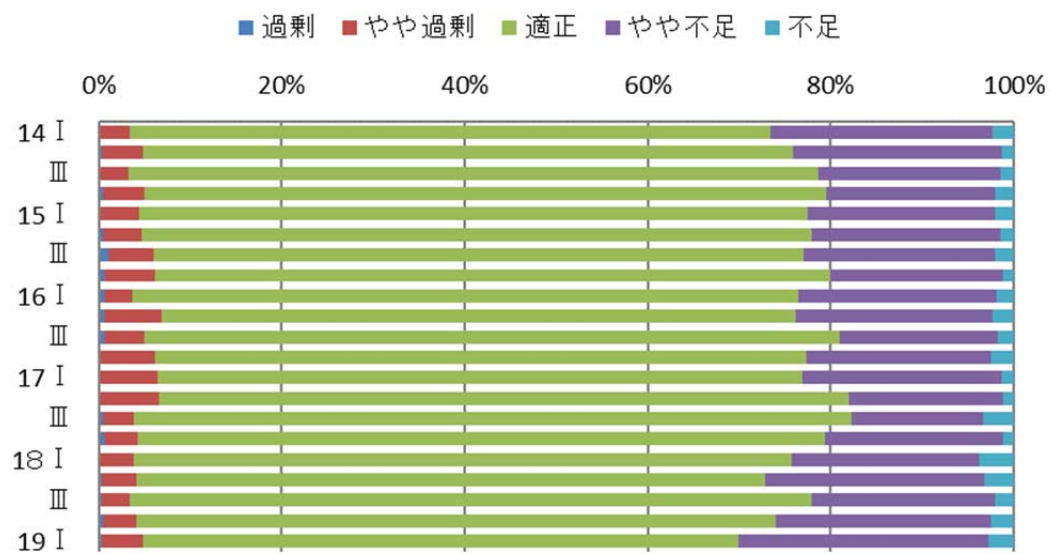
【資金繰りの状況】前回調査から大きな変化は見られないが、窮屈感のやや後退

6. 資金繰りの状況



【設備の過不足】 中期的な傾向でみれば、2017 年第Ⅱ期から不足感が高まる傾向にあるか？

7.設備の過不足



2. 業況判断

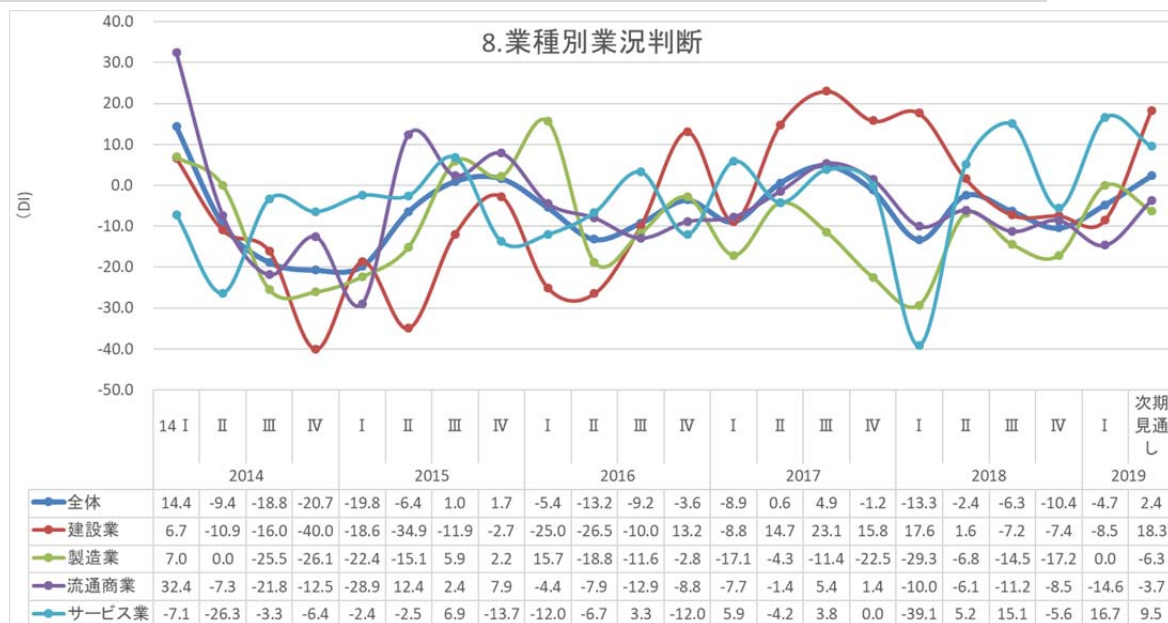
2-1. 業種別：製造業とサービス業での大幅な改善、前回「やや改善」した流通商業で悪化

建設業：1.1Pt のやや悪化（▲7.4→▲8.5）、製造業：17.2Pt の大幅な改善（▲17.2→0.0）

流通商業：6.1Pt の悪化（▲8.5→▲14.6）、サービス業：22.2Pt の大幅な改善（▲5.6→16.7）

次期見通し：今期改善した製造業、サービス業で悪化、建設業と流通商業で改善見通し

→次期見通し DI（建設業：18.3、製造業：▲6.3、流通商業：▲3.7、サービス業：▲9.5）



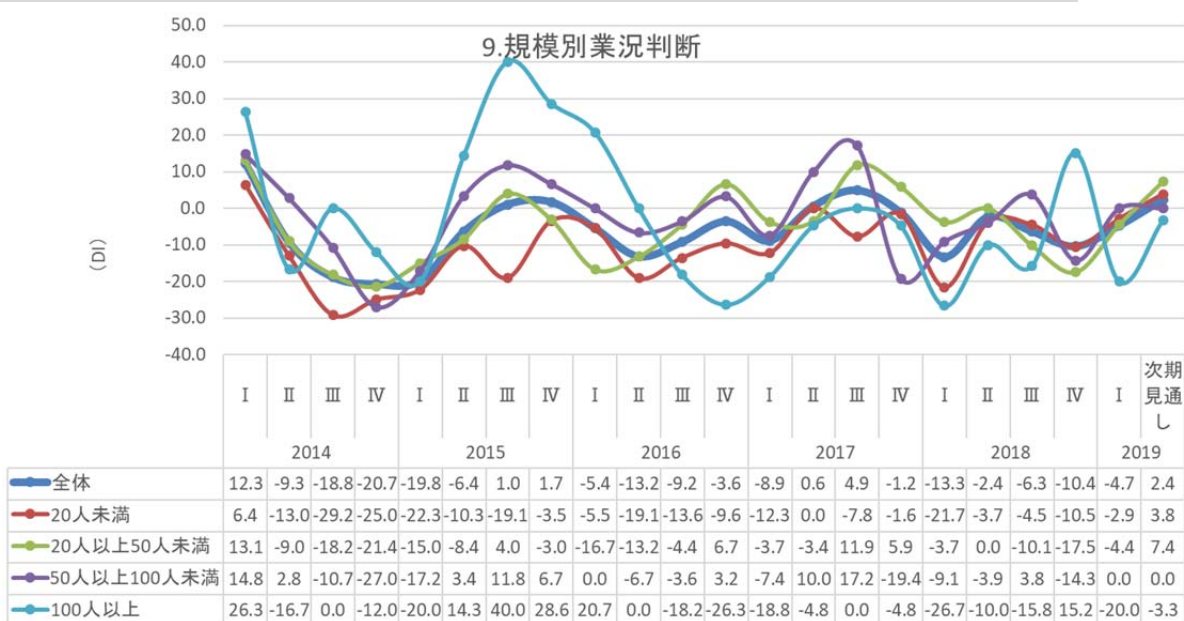
2-2. 規模別：100人以上規模層で大幅な悪化（前回と真逆）、前回悪化した50-100人規模層で大幅な改善

20人未満：7.6Pt の改善（▲10.5→▲2.9）、20～50人：13.0Pt の大幅な改善（▲17.5→▲4.4）

50～100人：14.3Pt の大幅な改善（▲14.3→0.0）、100人以上：35.2Pt の大幅な悪化（15.2→▲20.0）

次期見通し：50-100人規模層を除いて改善見通し

→次期見通し DI（20人未満：3.8、20～50人：7.4、50～100人：0.0、100人以上：▲3.3）



3. 売上高

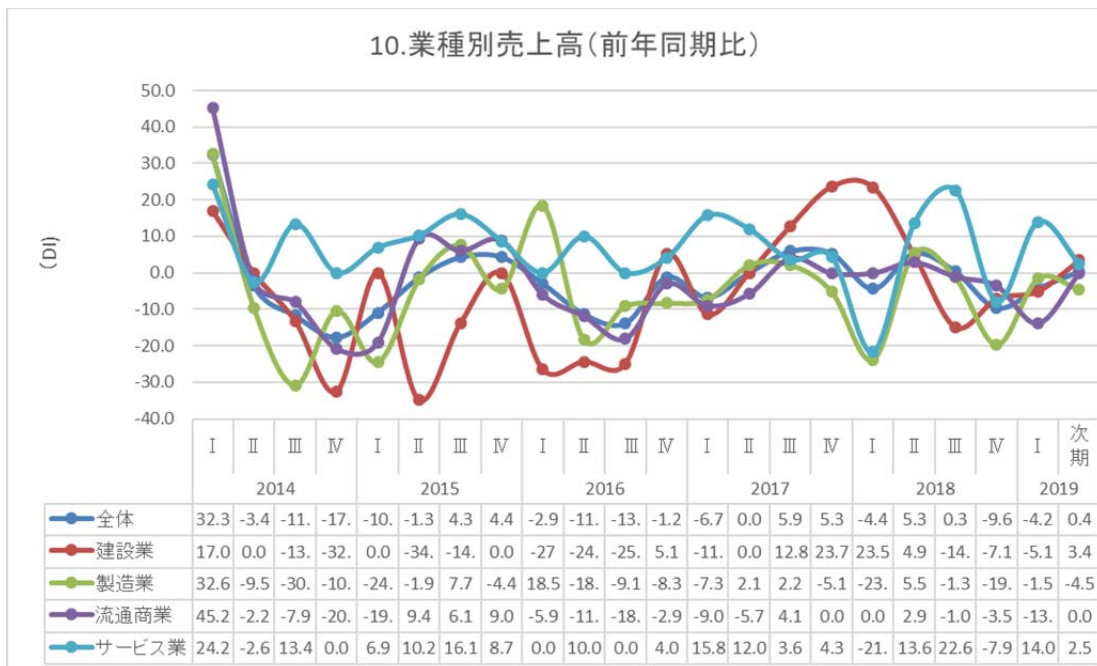
3-1. 業種別：前回大幅に悪化した製造業とサービス業で大幅な改善、流通商業で大幅な悪化

建設業：2.1Pt のやや改善（▲7.1→▲5.1）、製造業：18.2Pt の大幅な改善（▲19.7→▲1.5）

流通商業：10.3Pt の大幅な悪化（▲3.5→▲13.8）、サービス業：21.8Pt の大幅な改善（▲7.9→14.0）

次期見通し：サービス業で大幅な悪化、建設業で改善、流通商業で大幅な改善見通し

→（建設業：3.4、製造業：▲4.5、流通商業：0.0、サービス：2.5）



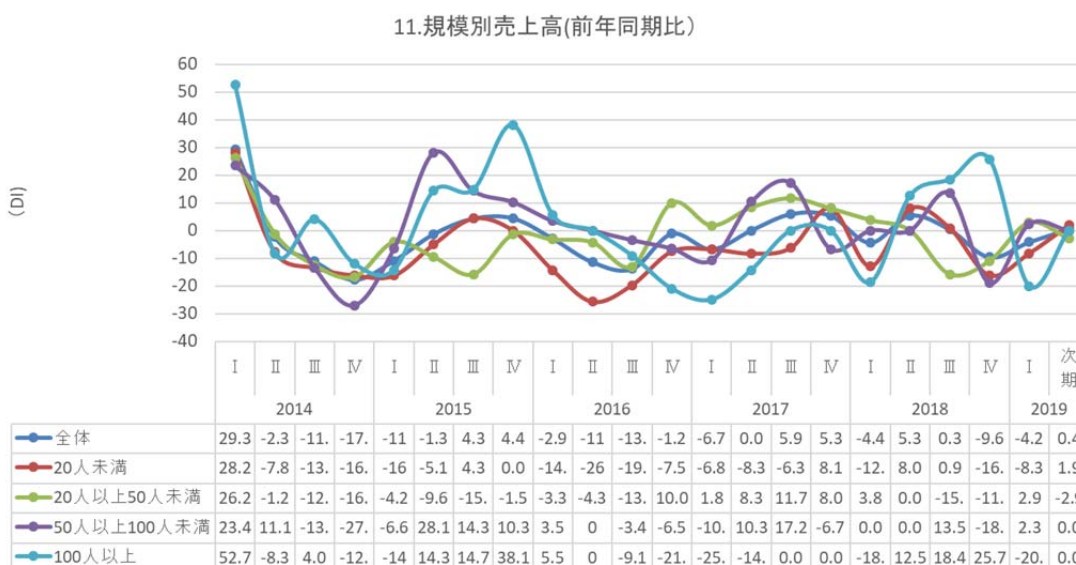
3-2. 規模別：100人以上規模層で大幅な悪化を示すが、他の規模では改善を示す。

20人未満：7.9Pt の改善（▲16.2→▲8.3）、20～50人：14.0Pt の大幅な改善（▲11.1→2.9）

50～100人：21.2Pt の大幅な改善（▲18.9→2.3）、100人以上：45.7Pt の大幅な悪化（25.7→▲20.0）

次期見通し：20人未満規模、100人以上規模で大幅な改善見通し

→（20人未満：1.9、20～50人：▲2.9、50～100人：0.0、100人以上：0.0）



4. 採算

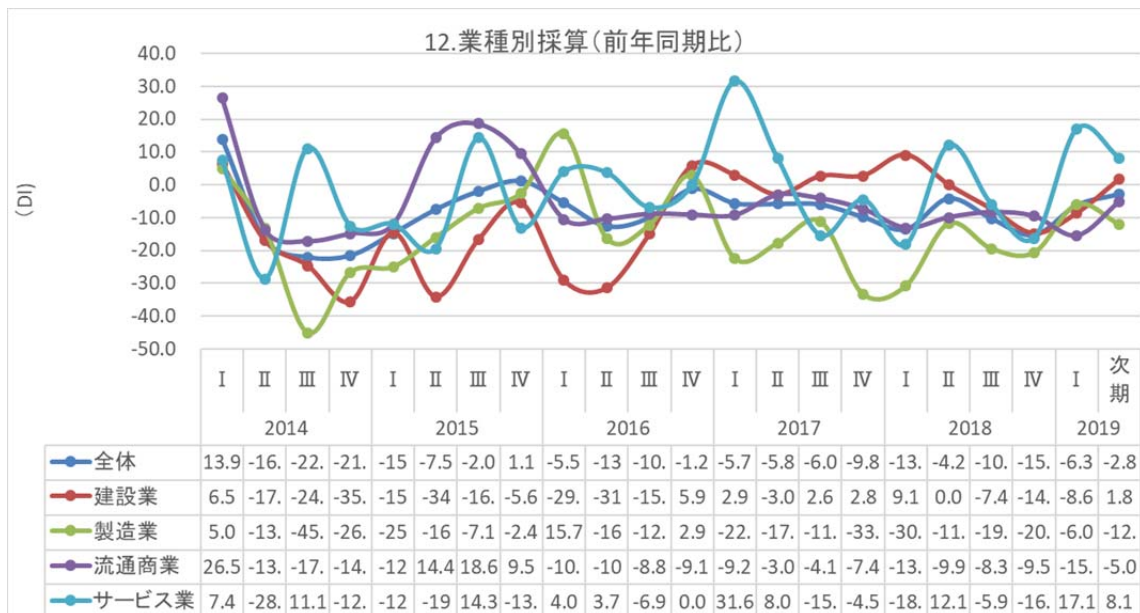
4-1. 業種別：製造業とサービス業で大幅な改善するも、次期は悪化見通し

建設業：6.2Pt の改善（▲14.8→▲8.6）、製造業：14.7Pt の大幅な改善（▲20.6→▲6.0）

流通商業：6.0Pt の悪化（▲9.5→▲15.5）、サービス業：33.3Pt の大幅な改善（▲16.2→17.1）

次期見通し：建設業と流通商業で大幅な改善見通し

→（建設業：1.8、製造業：▲12.1、流通商業：▲5.0、サービス業：8.1）



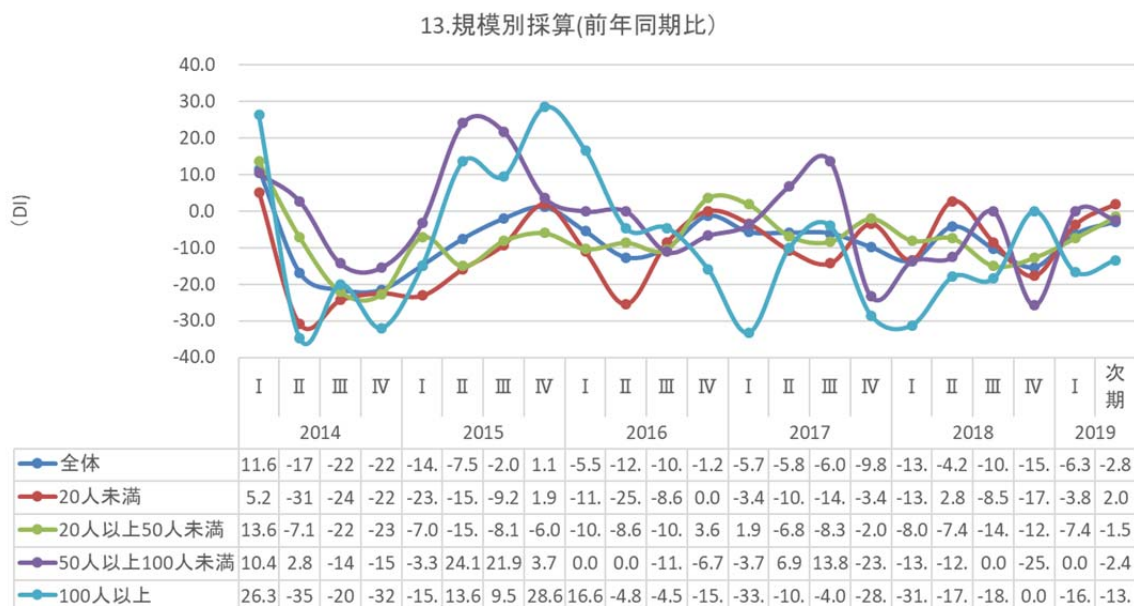
4-2. 規模別：前回調査で大幅改善した 100 人以上規模層で大幅な悪化、それ以外は改善が目立つ

20 人未満：13.9Pt の大幅な改善（▲17.7→▲3.8）、20～50 人：5.3Pt の改善（▲12.7→▲7.4）

50～100 人：25.7Pt の大幅な改善（▲25.7→0.0）、100 人以上：16.7Pt の大幅な悪化（0.0→▲16.7）

次期見通し：50～100 人規模層を除いて改善見通し

→（20 人未満：2.0、20～50 人：▲1.5、50～100 人：▲2.4、100 人以上：▲13.3）

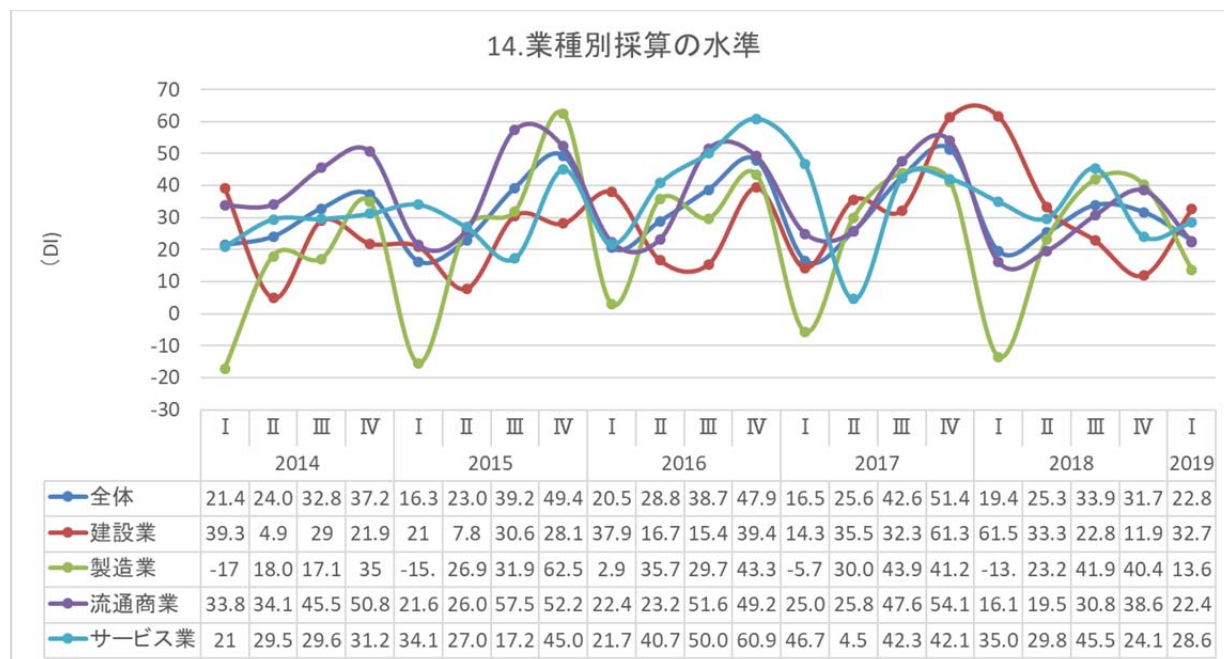


5. 採算の水準

5-1. 業種別：建設業で大幅な改善、流通商業のみ改善、建設業、サービス業で大幅な悪化

建設業：20.7Pt の大幅な改善（11.9→32.7）、製造業：26.8Pt の大幅な悪化（40.4→13.6）

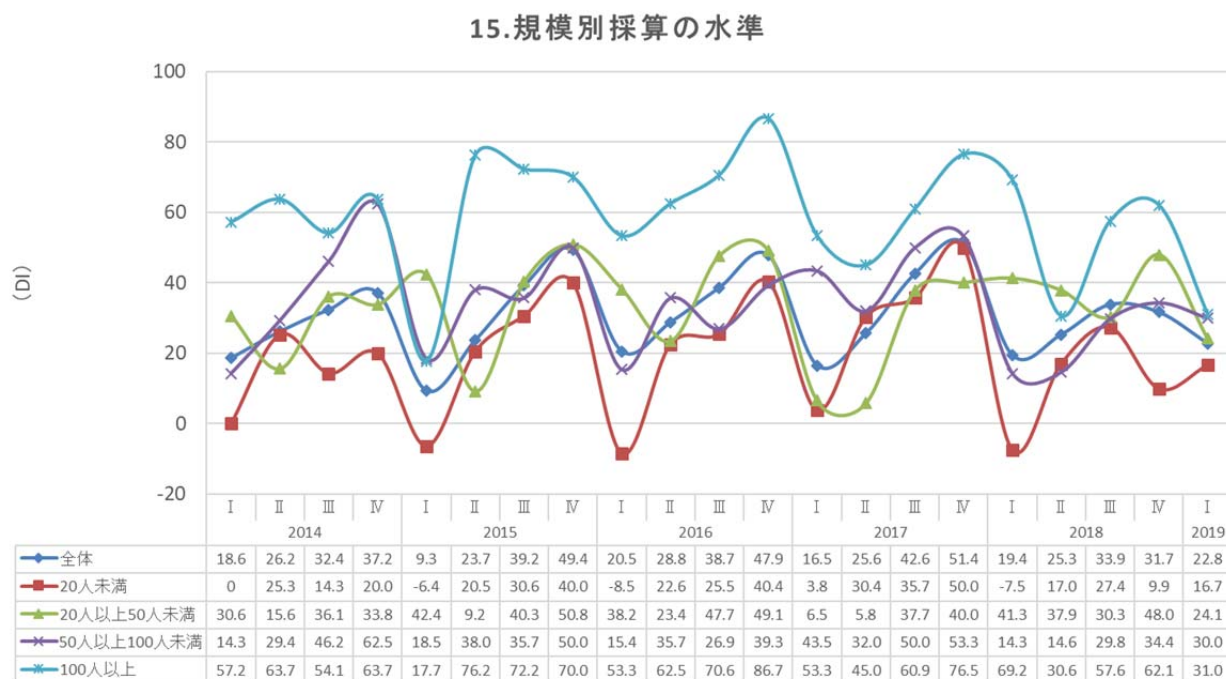
流通商業：16.2Pt の大幅な悪化（38.6→22.4）、サービス業：4.4Pt のやや改善（24.1→28.6）



5-2. 規模別：前回大幅な悪化を示した 20 人未満の DI は、今期にやや改善、20 人以上規模層で悪化

20 人未満：6.8Pt の改善（9.9→16.7）、20～50 人：23.9Pt の大幅な悪化（48.0→24.1）

50～100 人：4.4Pt のやや悪化（34.4→30.0）、100 人以上：31.0Pt の大幅な悪化（62.1→31.0）



6. 業況水準

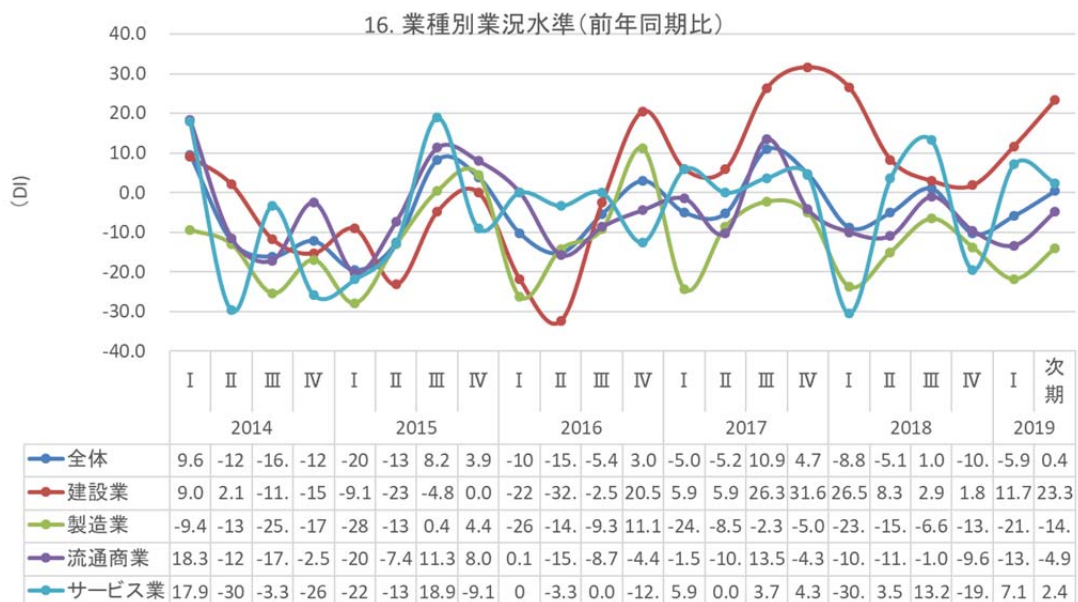
6-1. 業種別：景況感の悪化が懸念されていた建設業で改善、前回大幅な悪化を示したサービス業で大幅改善

建設業：9.8Ptの改善（1.8→11.7）、製造業：8.0Ptの悪化（▲13.8→▲21.9）

流通商業：3.8Ptのやや悪化（▲9.6→▲13.4）、サービス業：26.6Ptの大幅な改善（▲19.4→7.1）

次期見通し：サービス業を除いて改善見通し、とりわけ建設業で大幅な改善見通し

→（建設業：23.3、製造業：▲14.1、流通商業：▲4.9、サービス業：2.4）



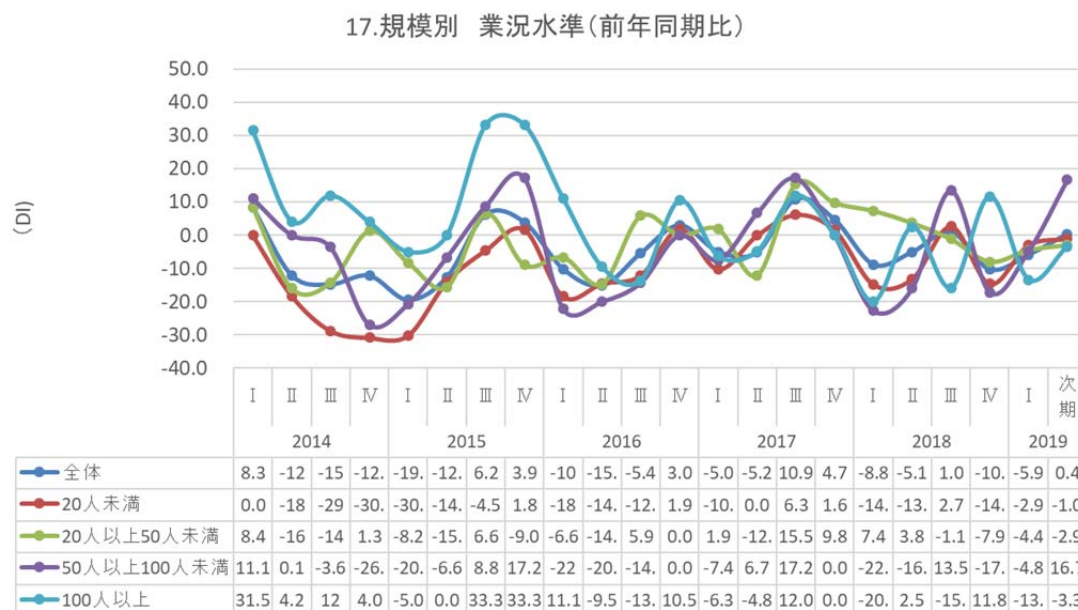
6-2. 規模別：前回調査と真逆の結果；100人以上規模層で大幅な悪化、100人未満規模の各層では改善

20人未満：11.7Ptの大幅な改善（▲14.6→▲2.9）、20～50人：3.5Ptのやや改善（▲7.9→▲4.4）

50～100人：12.4Ptの大幅な改善（▲17.1→▲4.8）、100人以上：25.1Ptの大幅な悪化（11.8→▲13.3）

次期見通し：全規模層で改善見通し、とりわけ50人以上規模層は大幅な改善見通し

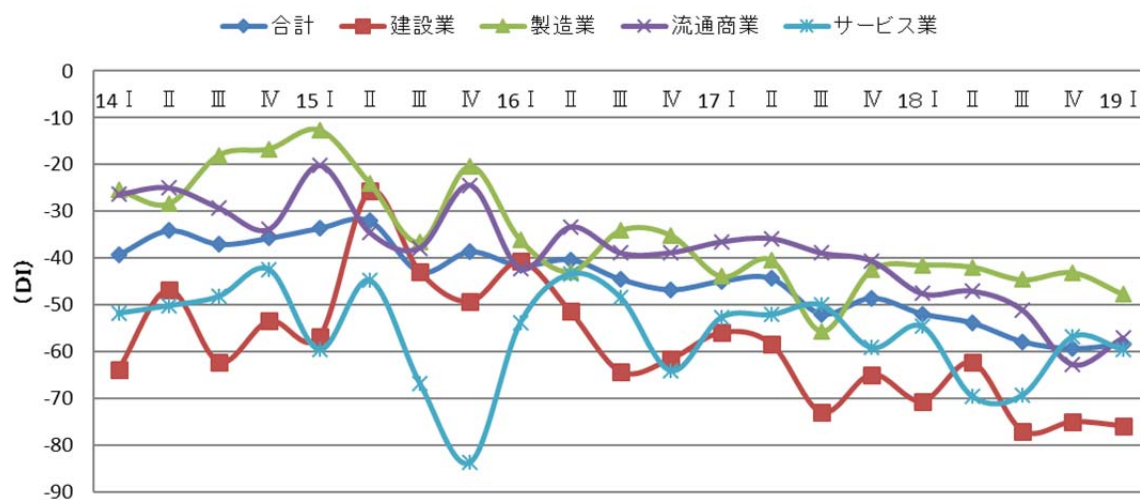
→（20人未満：▲1.0、20～50人：▲2.9、50～100人：16.7、100人以上：▲3.3）



7. 人手の過不足

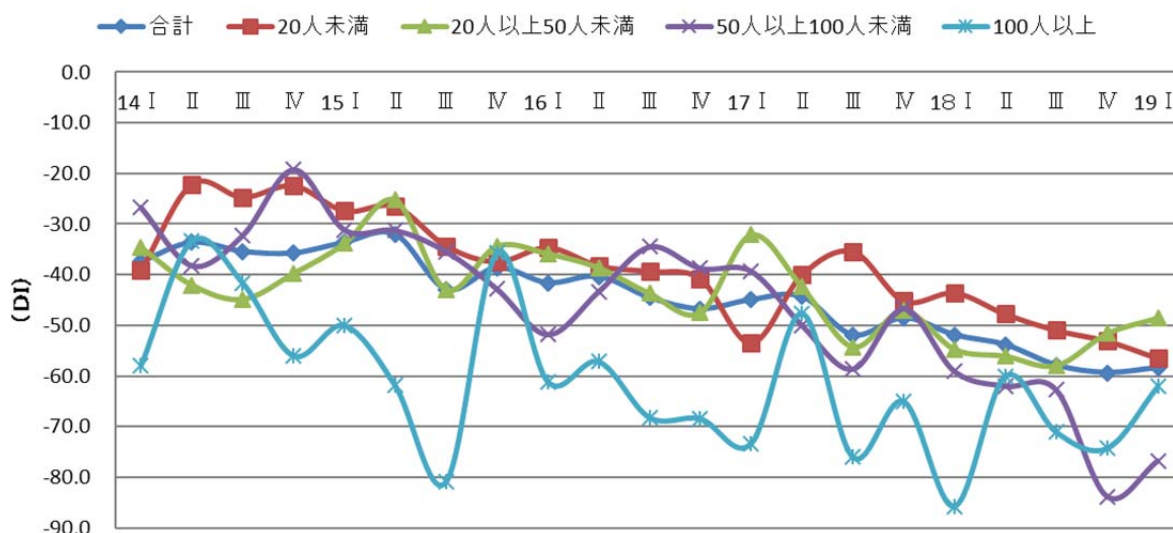
7-1. 業種別：変化幅は大きくないが、建設業は今期も▲70 台で推移／流通商業で 5. 7Pt の改善

18.業種別・人手の過不足



7-2. 規模別：20 人未満規模を除いて改善、100 人以上規模で 10Pt 以上の改善

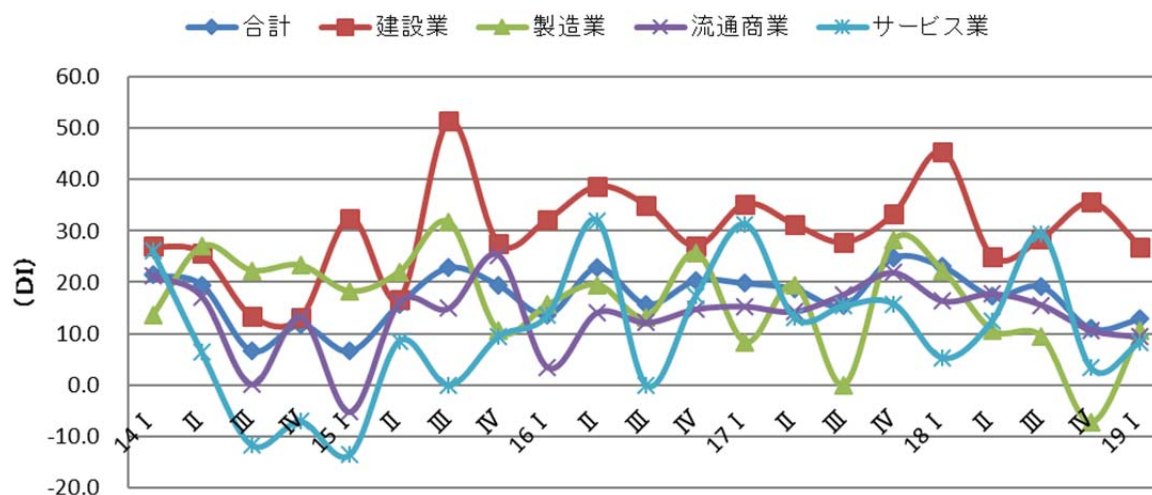
19.規模別・人手の過不足



8. 資金繰りの状況

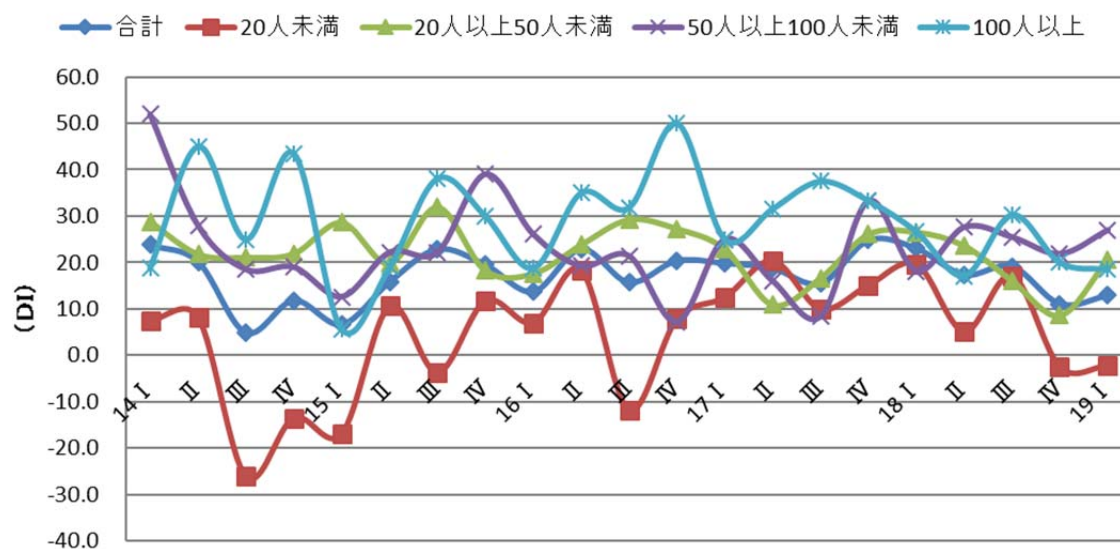
8-1. 業種別：製造業で大幅な改善（製造業は5期連続の後退は免れる）

20.業種別・資金繰り



8-2. 規模別：20人未満規模は水面下でほぼ横ばい／※次期の推移も注視する必要あり

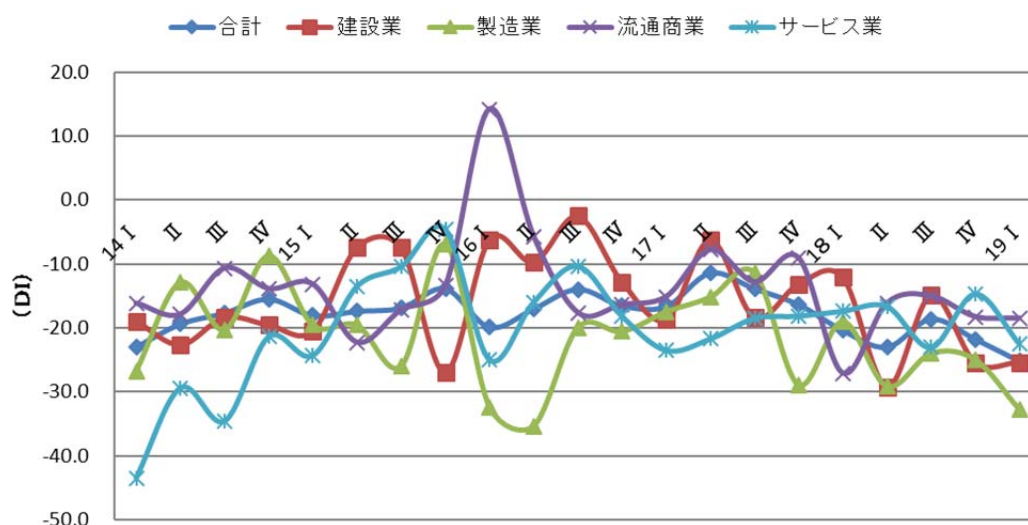
21.規模別・資金繰り



9. 設備の過不足

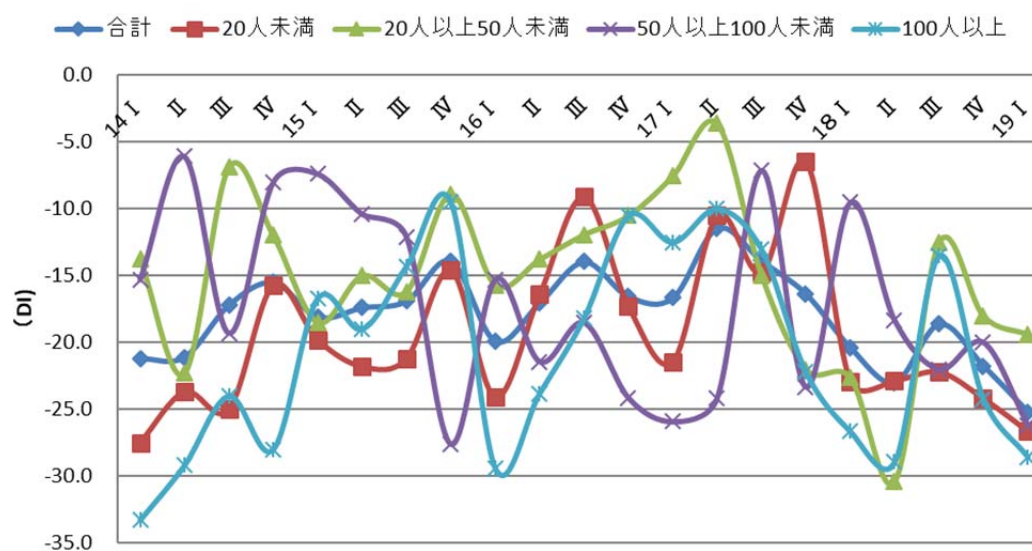
9-1. 業種別：製造業、サービス業でDIは下降、特に製造業で▲30 台に。

22.業種別・設備の過不足



9-2. 規模別：全規模層で下降、50 人以上規模層で変化幅がやや大きい

23.規模別・設備の過不足



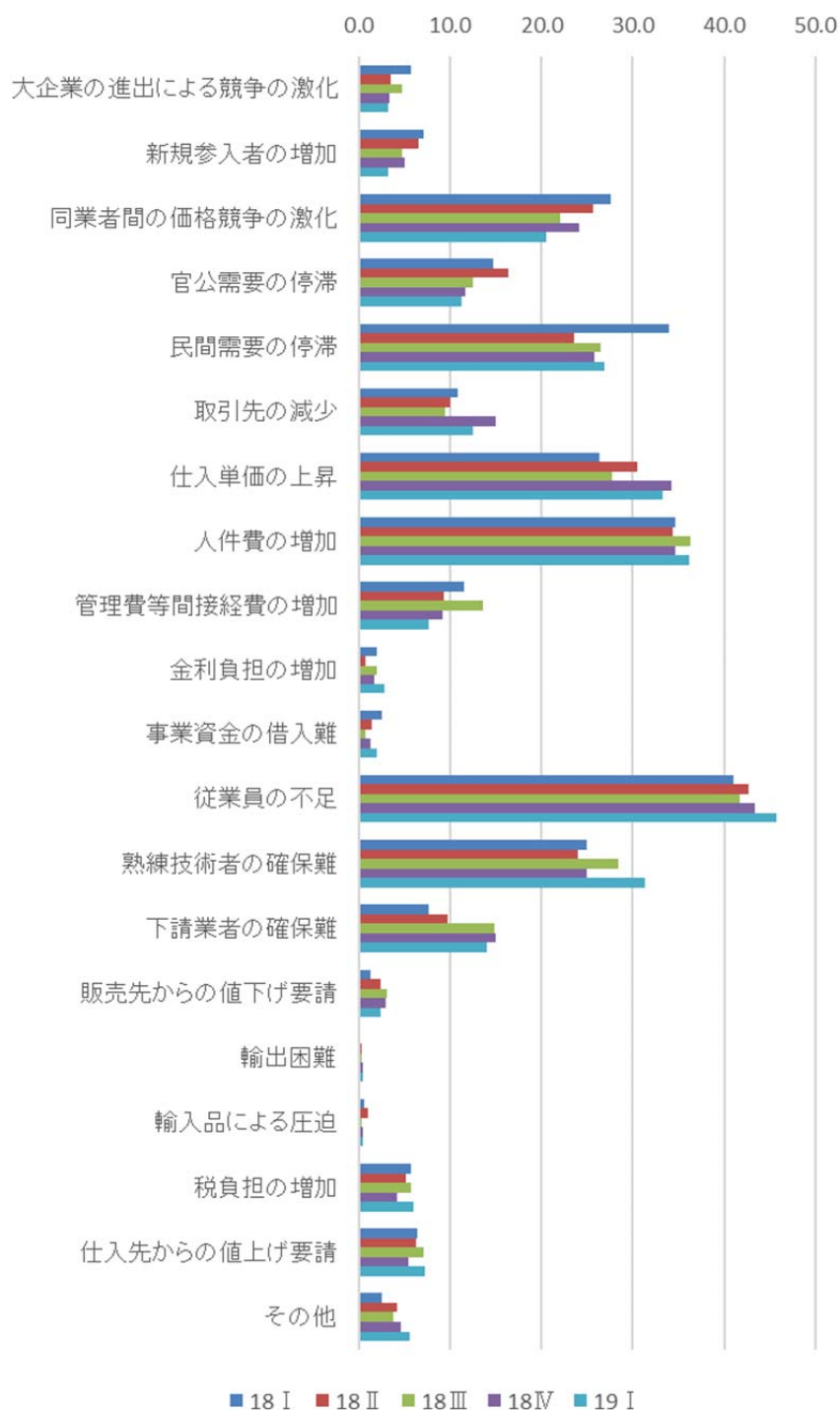
10. 経営上の問題点、次期の経営上の力点

【経営上の問題点】

・上位3項目：従業員の不足（45.8%）、人件費の増加（36.1%）、仕入単価の上昇（33.3%）

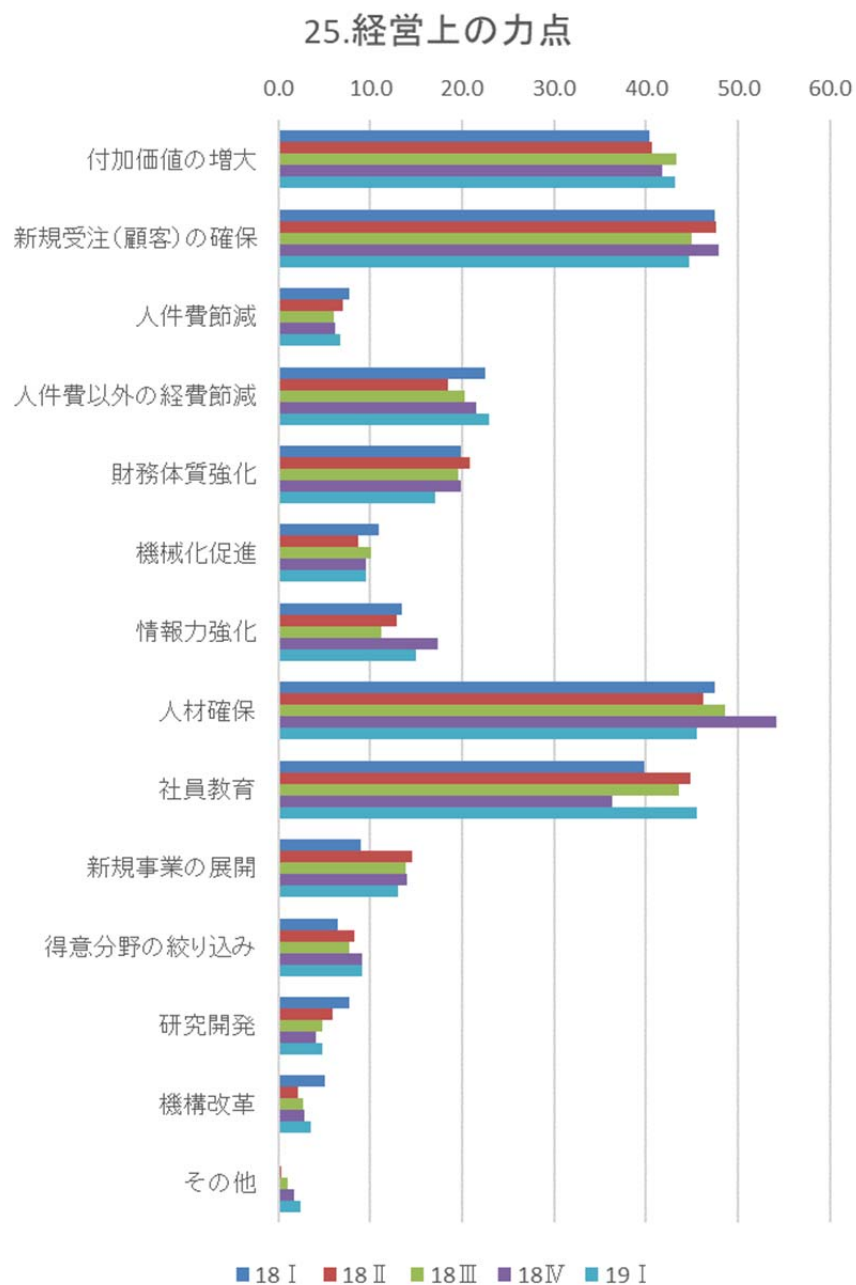
→注目項目：「熟練技術者の確保難」（6.3Pt 上昇）／「民間需要の停滞」（26.9%）の徐々の高まり

24.経営上の問題点



【経営上の力点】

- ・「社員教育」9.1Ptの急上昇／新人材確保は8.6Ptの低下（45.5%）
→人件費以外の経費節減が3期連続で微増していることにも注意



経営上の努力コメント（業種別）

【建設業】

- ・既存顧客への営業活動、受注活動 消費税増税に伴う賃金アップを検討中 人材不足による外国人実習生の受け入れ
- ・就業規則の見直し（定年延長、休日増加）採用（新、中途共に）強化 女性活躍計画五カ年計画キックオフ 社内教育方法見直し（6か月計画）
- ・職員及び作業員への福利厚生への拡充 誕生日にケーキを送っている（家族に対しても）
営業力の強化
- ・人事評価システムの導入 個人面談 勤怠管理の導入 現場共有ソフトの導入 今後はグループで社内業務の平準化を行い残業時間を減らす
- ・技術力を生かし熟練技能士でなければ施工の難しい古い屋根葺工法や特殊な機械技術が必要とされる難易度の高い屋根工事等の受注に努め、付加価値の増大を進めていく
- ・経費の削減
- ・営業強化し受注量を増やした

【製造業】

- ・WEB受注体制強化とソフト開発、改良を行った
- ・営業推進の一環として年初から新規商品を展示会に出展 認知度アップに努め今後のB to B取引拡大に向け推進している
- ・人件費の削減 新規開拓（企画開発）にエースを充てた 毎日の情報交換を密にする
- ・チーム力をまとめて売り上げを取りに行く
- ・経費削減 財務体質改善
- ・働き方多様化（アルバイトの採用） 海外展示会への出展 生産性向上効率化により国際競争力を付ける
- ・景気の実感を良くも悪くも感じられないので、見えるもの出来る事から無駄をなくしていくよう会社全員に周知実行してもらえ職場づくりを目指す
- ・理念を社員と共に作り上げ朝礼での唱和まで良かったが常に理念に沿って同じ方向に向かっているが常に話し合い議論をしなくてはならない
- ・少数での生産性向上の為に省力化
- ・2020年3月期以降の3年間の中期経営計画を役員会で長期討議を行っています。
- ・朝礼の強化
- ・営業の重点機種を推進 ・経費削減 ・人材確保
- ・拠点環境整備と新規事業計画・展開し、販売チャネル見直し。海外販売店の新規出店で、販路拡大
- ・政府の推進する「働き方改革」を念頭に社員の定着を計り、付加価値の増大を目指したい。
- ・節税対策として費用として計上できる備品や消耗品の一括購入。
- ・今朝は計画生産できたので売上げも増大す
- ・働き方改革に依る準備作業が増えて、有給休暇取得計画や、就業規則の変更に時間をとられたが、人材の確保と定着に力を入れる予定
- ・競走に勝つための営業力の強化 クレームゼロ

【流通商業】

- ・ 社内の部署、人員、役割分担の再編成
- ・ 採用活動に関して多方面のソースを活用し、自社及び社員、取引先についても深く理解してもらうためのツールも新たに作成 今後もお金も人も時間をかけて採用に注力する
- ・ 求人活動の活発化
- ・ 付加価値創造による差別化の実施に向け努力 今後はシナジーを発揮できる分野への事業展開を計画中
- ・ 顧客充てに自社の対策について連絡した
- ・ 新たな顧客の獲得活動 顧客満足度の向上活動 新規事業の展開 地域貢献活動の実施 従業員満足度の向上活動 各事業所毎の年次活動計画の策定等
- ・ 数値による仕入計画、販売計画、値下げ計画等感覚だけでなく数値で見えるようにしているのがいい方向に行っていると思う
- ・ 来期に向けての問題の洗い出し及び改善計画 3月より実行
- ・ 設備投資と合理化省力化をもとに顧客サービスの向上を推進 経営指針や経営計画書の作成を行い体制の強化を図っている
- ・ 経費節減（電力費）今後も継続
- ・ 販売単価の維持 丁寧な営業 人を売る営業
- ・ 有効求人倍率が上昇し続けており魅力のある企業とすること そのための体力作りを続けている その為の原資として利益率の向上に力点を置き値上げ（運賃交渉）生産性向上を進めている
- ・ コツコツと喜ばれる仕事を積み重ねイメージやブランドを高めていく 定期的にイメージ広告を打つことで売上高、情報力を高め続ける
- ・ スタッフ教育の強化
- ・ 在庫を徹底的に抑えている。 物流の生産性を上げている。
- ・ 来期に向け、組織の改編、目標の確立を実施中

【サービス業】

- ・ 教育
- ・ 機構改革 使命役割、期待される成果を明文化 どんな働き方をすれば評価されるのかを明らかにする作業を進めている
- ・ 人材確保
- ・ 経営理念を作成し次の一手を描いているが現在目の前の業務に手いっぱいなかなか次策を具現化できずにいる 何をすべきか見えているが時間人手が足りていない
- ・ 従業員に対する労働時間と生産性
- ・ 新人教育の為長期の研修に二人派遣した
- ・ 会ぎ方法の見直し

※参考

業況(前年同期比)

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	14.4	-9.4	-18.8	-20.7	-19.8	-6.4	1.0	1.7	-5.4	-13.2	-9.2	-3.6	-8.9	0.6	4.9	-1.2	-13.3	-2.4	-6.3	-10.4	-4.7
好転	34.7	23.8	19.5	19.7	18.3	24.7	25.4	25.0	25.3	17.9	21.1	21.4	19.0	25.1	27.2	25.1	18.4	21.4	21.7	20.0	22.1
不変	44.2	43.0	41.8	39.9	43.6	44.3	50.2	51.7	44.0	51.1	48.6	53.6	53.2	50.3	50.5	48.5	50.0	54.9	50.3	49.6	51.0
悪化	21.1	33.2	38.6	40.4	38.1	31.1	24.4	23.3	30.7	31.1	30.3	25.0	27.8	24.6	22.3	26.3	31.6	23.7	28.0	30.4	26.9
サンプル数 (%べ-ス)	190	235	220	203	218	219	205	180	166	190	185	168	158	175	184	171	158	295	300	240	253

売上高(前年同期比)

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	31.3	-3.4	-11.7	-17.7	-10.9	-1.3	0.9	4.4	-2.9	-11.3	-13.8	-1.2	-6.7	0.0	5.9	5.3	-4.4	5.3	0.3	-9.6	-4.2
増加	47.7	27.5	25.2	20.6	26.8	28.4	30.1	32.8	31.0	23.7	23.4	28.4	23.9	28.8	31.2	30.2	25.0	29.3	27.9	24.5	26.0
横ばい	35.9	41.6	38.1	41.1	35.5	41.9	44.0	38.8	35.1	41.2	39.4	42.0	45.4	42.4	43.5	45.0	45.6	46.7	44.6	41.4	43.9
減少	16.4	30.9	36.7	38.3	37.7	29.7	25.8	28.4	33.9	35.1	37.2	29.6	30.7	28.8	25.3	24.9	29.4	24.0	27.5	34.1	30.2
サンプル数 (%べ-ス)	195	233	226	209	220	222	209	183	168	194	188	168	163	177	186	169	160	300	298	249	262

採算(前期年同期比)

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	13.9	-16.5	-22.0	-21.6	-14.8	-7.5	-2.0	1.1	-5.5	-12.6	-10.0	-1.2	-5.7	-5.8	-6.0	-9.8	-13.5	-4.2	-10.3	-15.3	-6.3
好転	33.9	20.3	17.4	16.2	20.5	24.9	24.1	24.6	23.2	17.9	20.0	23.6	22.6	24.0	21.9	21.5	16.1	20.4	17.8	18.2	25.4
横ばい	45.4	42.9	42.9	46.1	44.2	42.7	49.7	52.0	48.2	51.6	50.0	51.6	49.1	46.2	50.3	47.2	54.2	55.0	54.1	48.3	43.0
悪化	20.8	36.8	39.7	37.7	35.3	32.4	26.1	23.4	28.7	30.5	30.0	24.8	28.3	29.8	27.9	31.3	29.7	24.6	28.1	33.5	31.6
サンプル数 (%べ-ス)	183	231	219	204	215	213	199	175	164	190	180	152	159	171	183	163	155	289	292	242	256

採算水準

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	21.4	24.4	32.8	37.2	16.3	23.0	39.2	49.4	20.5	28.8	38.7	47.9	16.5	25.6	42.6	51.4	19.4	25.3	33.9	31.7	22.8
黒字	23.3	22.1	23.0	21.9	17.3	19.5	22.6	28.1	20.5	22.4	22.0	25.3	20.1	16.7	25.9	29.5	24.5	19.9	28.6	20.3	19.2
やや黒字	26.7	29.0	31.0	33.9	29.9	29.3	37.1	33.8	30.8	30.6	35.7	38.4	27.3	31.4	32.1	33.6	22.3	29.9	27.3	31.2	28.1
収支トントン	20.7	22.1	24.0	25.7	21.8	25.4	19.9	25.6	17.8	22.9	23.2	20.5	21.6	29.5	26.5	25.3	25.9	25.7	22.0	28.7	28.1
やや赤字	16.7	14.3	13.5	12.6	16.2	15.1	14.0	9.4	17.8	11.2	14.9	11.6	18.7	14.1	8.0	4.8	12.2	15.4	16.7	10.9	14.7
赤字	12.7	12.4	8.5	6.0	14.7	10.7	6.5	3.1	13.0	12.9	4.2	4.1	12.2	8.3	7.4	6.8	15.1	9.1	5.3	8.9	9.8
サンプル数 (%べ-ス)	150	217	200	183	197	205	186	160	146	170	168	146	139	156	162	146	139	241	245	202	224

1人当たり売上高(前年同期比)

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	18.0	-14.0	-11.6	-19.2	-14.4	-10.3	2.4	-1.1	-7.8	-9.9	-10.6	3.0	-15.6	-6.9	3.8	3.0	-8.1	0.3	-5.6	-2.4	-7.3
増加	37.6	22.6	22.4	16.3	22.8	22.4	27.5	25.7	25.3	19.8	18.5	27.1	18.8	22.3	27.4	30.4	20.5	23.0	21.5	25.2	19.7
横ばい	42.8	40.9	43.5	48.1	40.0	44.8	47.3	47.5	41.6	50.5	52.4	48.8	46.9	48.6	48.9	42.3	50.9	54.4	51.5	47.2	53.3
減少	19.6	36.6	34.1	35.6	37.2	32.7	25.1	26.8	33.1	29.7	29.1	24.1	34.4	29.1	23.7	27.4	28.6	22.6	27.1	27.6	27.0
サンプル数 (%べ-ス)	194	235	223	208	215	223	207	179	166	192	189	166	160	175	186	168	161	296	303	250	259

1人当たり付加価値(前年同期比)

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	2.1	-19.0	-19.1	-19.8	-18.0	-12.0	-1.9	-2.2	-11.0	-9.5	-12.4	-3.0	-16.9	-6.4	-5.9	0.6	-9.4	-4.8	-4.7	-6.9	-7.8
増加	28.1	16.5	17.7	17.3	18.0	19.0	24.3	25.6	20.1	18.5	17.7	21.8	16.3	21.4	21.1	26.9	18.1	21.9	22.1	21.4	19.1
横ばい	45.8	48.1	44.5	45.5	46.0	50.0	49.5	46.7	48.8	53.4	52.2	53.3	50.6	50.9	51.9	46.7	54.4	51.4	51.2	50.4	54.1
減少	26.0	35.5	37.7	37.1	36.0	31.0	26.2	27.8	31.1	28.0	30.1	24.8	33.1	27.7	27.0	26.3	27.5	26.7	26.8	28.2	26.8
サンプル数 (%べ-ス)	192	231	220	202	211	216	206	180	164	189	186	165	160	173	185	167	160	292	299	248	257

仕入単価(前年同期比)

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	57.7	57.3	53.8	48.3	37.2	44.8	38.1	21.6	4.4	10.3	3.9	11.3	25.0	32.1	31.8	40.1	41.8	43.5	42.2	48.1	43.4
上昇	59.8	60.0	60.6	54.2	44.9	51.9	44.8	31.3	20.9	17.3	12.8	21.3	30.8	35.1	34.7	42.6	45.6	47.3	45.3	51.0	47.7
横ばい	38.1	37.3	36.2	39.8	47.3	41.0	48.5	59.1	62.7	75.7	78.2	68.8	63.5	61.9	62.5	54.9	50.6	48.8	51.6	46.1	48.0
下降	2.1	2.7	3.3	6.0	7.7	7.1	6.7	9.7	16.5	7.0	8.9	10.0	5.8	3.0	2.8	2.5	3.8	3.9	3.1	2.9	4.3
サンプル数 (%ベ-ス)	189	225	213	201	207	212	194	176	158	185	179	160	156	168	176	162	158	283	287	241	256

販売単価(前年同期比)

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	10.2	16.8	13.4	11.1	8.8	12.8	12.7	7.4	-1.9	-7.0	-5.1	-1.2	-5.8	-1.8	1.1	3.8	2.5	10.3	6.9	8.8	11.0
上昇	21.6	26.1	23.4	23.6	21.1	23.3	23.4	19.9	12.7	8.1	8.4	11.2	11.7	11.9	11.9	13.9	13.9	19.5	20.1	18.3	20.0
横ばい	67.0	64.6	67.5	63.8	66.7	66.2	66.0	67.6	72.6	76.8	78.1	76.4	70.8	74.4	77.4	75.9	74.7	71.3	66.7	72.1	71.0
下降	11.4	9.3	9.1	12.6	12.3	10.5	10.7	12.5	14.6	15.1	13.5	12.4	17.5	13.7	10.7	10.1	11.4	9.2	13.2	9.6	9.0
サンプル数 (%ベ-ス)	185	226	209	199	204	210	197	176	157	185	178	161	154	168	177	158	158	282	288	240	255

人手の過不足

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	-39.3	-34.1	-37.0	-35.7	-33.6	-32.0	-42.9	-38.6	-41.6	-40.3	-44.5	-46.7	-44.9	-44.3	-51.9	-48.5	-51.9	-53.8	-57.9	-59.3	-58.4
過剰	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	0.9	1.0	0.5	0.6	1.0	0.0	0.0	0.6	1.7	0.5	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.4
やや過剰	9.3	8.6	6.8	8.7	8.9	9.0	5.8	10.4	8.1	7.3	4.7	5.9	7.6	8.0	4.4	7.7	3.8	3.7	5.5	5.3	4.7
適正	42.3	48.9	48.4	45.9	47.7	48.2	43.5	39.6	41.0	42.9	46.1	41.4	38.6	36.4	38.3	36.1	40.5	36.8	31.2	30.1	31.5
やや不足	40.2	33.5	31.7	34.3	29.4	33.3	38.6	38.5	43.5	39.8	37.7	39.1	38.6	42.0	43.7	39.1	43.7	42.5	45.2	46.7	48.6
不足	8.2	9.0	12.7	10.6	13.6	8.6	11.1	11.0	6.8	8.9	11.5	13.6	14.6	11.9	13.1	17.2	12.0	16.1	18.2	17.9	14.8
サンプル数 (%ベ-ス)	194	233	221	207	214	222	207	182	161	191	191	169	158	176	183	169	158	299	292	246	257

資金繰りの状況

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	21.5	19.5	6.7	11.8	6.6	15.8	22.9	19.5	13.7	22.9	15.7	20.4	19.9	18.8	15.5	24.8	23.1	17.4	19.2	11.0	12.9
余裕あり	24.8	21.3	17.5	18.3	18.3	19.6	19.0	21.3	19.9	21.8	18.6	18.5	23.3	17.5	22.0	19.5	22.4	20.0	19.2	17.2	17.8
やや余裕あり	15.2	19.0	15.5	16.1	15.7	17.2	21.8	16.3	17.1	21.2	16.9	18.5	15.8	15.6	12.5	22.8	18.9	19.2	19.9	16.7	15.6
順調	40.6	38.9	40.5	43.0	38.6	42.2	41.3	44.4	39.7	37.1	44.8	46.5	41.8	52.5	46.4	40.3	40.6	38.9	41.0	43.1	46.2
やや窮屈	15.2	17.1	24.5	19.9	25.4	18.1	14.5	17.5	18.5	16.5	17.4	14.0	15.8	11.9	14.9	15.4	14.0	21.1	17.0	20.6	17.3
窮屈	4.2	3.8	2.0	2.7	2.0	2.9	3.4	0.6	4.8	3.5	2.3	2.5	3.4	2.5	4.2	2.0	4.2	0.8	3.0	2.4	3.1
サンプル数 (%ベ-ス)	165	211	200	186	197	204	179	160	146	170	172	157	146	160	168	149	143	265	271	209	225

設備の過不足感

カテゴリ	14 I	II	III	IV	15 I	II	III	IV	16 I	II	III	IV	17 I	II	III	IV	18 I	II	III	IV	19 I
DI	-23.0	-19.4	-17.7	-15.5	-18.1	-17.4	-16.9	-13.9	-19.9	-17.0	-14.0	-16.6	-16.7	-11.4	-13.9	-16.4	-20.4	-23.0	-18.6	-21.8	-25.2
過剰	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	0.5	1.0	0.6	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.3	0.3	0.4	0.4
やや過剰	3.4	4.4	3.3	4.5	4.4	4.2	5.0	5.6	3.1	6.3	4.5	6.1	6.4	6.6	3.3	3.6	3.8	3.8	3.1	3.8	4.4
適正	70.1	71.1	75.2	74.5	73.2	73.2	71.1	73.7	72.7	69.3	76.0	71.2	70.5	75.3	78.3	75.2	72.0	68.6	74.5	69.9	65.2
やや不足	24.3	22.8	20.0	18.5	20.5	20.7	20.9	19.0	21.7	21.6	17.3	20.2	21.8	16.9	14.4	19.4	20.4	24.0	20.0	23.4	27.2
不足	2.3	1.3	1.4	2.0	2.0	1.4	2.0	1.1	1.9	2.3	1.7	2.5	1.3	1.2	3.3	1.2	3.8	3.1	2.1	2.5	2.8
サンプル数 (%ベ-ス)	177	228	210	200	205	213	201	179	161	176	179	163	156	166	180	165	157	287	290	239	250

※参考2

地域別：景況判断項目

業況判断（前年同期比）

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ	次期見通し
全 体	-2.4	-6.3	-10.4	-4.7	2.4
道 央	1.4	-2.7	-6.8	0.0	5.7
札幌	0.0	-4.9	-3.0	0.0	4.9
小樽	10.5	8.3	-26.3	0.0	10.5
道 東	-12.3	-6.3	-10.9	-26.4	-3.7
帯広	-7.1	-10.3	-7.1	-29.6	0.0
釧路	-17.2	0.0	-14.8	-23.1	-7.4
道 南	-20.0	-25.0	-18.2	2.9	-8.6
函館	-26.9	-20.0	-11.1	10.5	0.0
日胆	-7.1	-31.6	-26.7	-6.3	-18.8
道 北	11.8	0.0	-14.7	2.3	9.3
旭川	18.4	8.8	-12.5	-3.7	0.0
北見	-7.7	-25.0	-20.0	12.5	25.0

売上高（前年同期比）

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ	次期見通し
全 体	5.3	0.3	-9.6	-4.2	0.4
道 央	4.1	6.9	-3.2	1.6	4.9
札幌	9.4	3.3	2.0	5.8	3.9
小樽	9.5	25.0	-26.1	-19.0	9.5
道 東	12.3	-1.6	-17.2	-17.5	-10.9
帯広	-13.8	0.0	-13.8	-17.9	-7.4
釧路	-6.7	-3.8	-20.7	-17.2	-14.3
道 南	-5.3	-21.7	-5.7	2.7	-2.7
函館	3.7	-7.7	0.0	20.0	10.0
日胆	-13.3	-40.0	-12.5	-17.6	-17.6
道 北	17.6	4.5	-25.0	-9.3	5.0
旭川	25.6	15.6	-22.7	-14.8	8.0
北見	-8.3	-25.0	-30.0	0.0	0.0

採算（前年同期比）

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ	次期見通し
全 体	-4.2	-10.3	-15.3	-6.3	-2.8
道 央	-2.1	-5.8	-10.7	-4.8	-1.7
札幌	0.0	-7.6	-9.0	-2.9	0.0
小樽	-15.8	4.8	-19.0	-14.3	-10.5
道 東	-12.3	-17.2	-16.4	-18.2	-5.7
帯広	-20.7	-21.1	-15.4	-25.9	-7.7
釧路	-3.6	-11.5	-17.2	-10.7	-3.7
道 南	-7.3	-13.0	-17.6	0.0	-15.2
函館	-7.7	-7.7	0.0	11.1	-5.6
日胆	-6.7	-20.0	-37.5	-12.5	-26.7
道 北	2.0	-11.6	-28.1	0.0	7.5
旭川	7.9	-6.5	-27.3	-7.4	12.5
北見	-18.2	-25.0	-30.0	12.5	0.0

業況水準（前年同期比）

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ	次期見通し
全 体	-5.1	1.0	-10.3	-5.9	0.4
道 央	-6.1	2.1	-5.8	-4.1	6.6
札幌	-6.2	0.8	0.0	-1.9	6.8
小樽	-5.3	8.3	-35.0	-15.8	5.3
道 東	-8.8	7.8	-9.1	-11.1	-7.5
帯広	7.1	7.7	-7.1	-25.9	3.7
釧路	-24.1	8.0	-11.1	3.7	-19.2
道 南	-10.0	-2.3	-8.8	-5.7	-14.3
函館	-26.9	-8.0	10.5	10.5	-10.5
日胆	21.4	5.3	-33.3	-25.0	-18.8
道 北	6.1	-8.7	-29.4	-4.7	4.7
旭川	8.3	-8.8	-25.0	-14.8	-3.7
北見	0.0	-8.3	-40.0	12.5	18.8

採算の水準

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ
全 体	25.3	33.9	31.7	22.8
道 央	23.5	28.5	36.1	25.0
札幌	23.5	27.6	39.7	22.1
小樽	23.5	33.3	21.1	42.9
道 東	23.5	42.0	21.3	10.0
帯広	38.5	40.6	33.3	0.0
釧路	8.0	44.4	8.7	20.8
道 南	-3.1	31.4	16.7	31.3
函館	-10.5	45.0	20.0	44.4
日胆	7.7	13.3	13.3	14.3
道 北	56.4	43.2	50.0	26.2
旭川	51.9	40.0	55.0	25.9
北見	66.7	50.0	37.5	26.7

1人当たり売上高

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ
全 体	0.3	-5.6	-2.4	-7.3
道 央	3.4	1.4	10.6	-6.5
札幌	-1.6	-3.3	8.0	-5.8
小樽	33.3	25.0	21.7	-9.5
道 東	-10.3	-12.1	-12.1	-8.9
帯広	-10.3	-10.3	-10.0	-25.0
釧路	-10.3	-14.8	-14.3	7.1
道 南	-2.6	-19.6	-5.7	2.9
函館	-4.0	-15.4	0.0	10.5
日胆	0.0	-25.0	-12.5	-6.3
道 北	5.8	-4.3	-29.4	-15.9
旭川	5.1	2.9	-29.2	-21.4
北見	7.7	-25.0	-30.0	-6.3

1人当たり付加価値

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ
全 体	-4.8	-4.7	-6.9	-7.8
道 央	-0.7	2.8	2.5	-2.5
札幌	-3.3	0.0	2.0	-3.0
小樽	14.3	16.7	4.3	0.0
道 東	-24.6	-9.4	-8.8	-12.5
帯広	-31.0	-7.9	-6.9	-25.0
釧路	-17.9	-11.5	-10.7	0.0
道 南	-12.8	-19.6	-14.3	-2.9
函館	-20.0	-19.2	-5.3	5.3
日胆	0.0	-20.0	-25.0	-12.5
道 北	11.5	-6.7	-29.4	-20.5
旭川	15.4	-3.0	-29.2	-25.0
北見	0.0	-16.7	-30.0	-12.5

仕入単価（前年同期比）

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ	次期見通し
全 体	43.5	42.2	48.1	43.4	49.0
道 央	39.3	42.6	47.1	45.9	52.5
札幌	38.7	43.6	44.8	43.1	51.0
小樽	42.9	37.5	56.5	60.0	60.0
道 東	50.9	50.8	47.5	32.1	42.3
帯広	50.0	50.0	43.3	33.3	38.5
釧路	51.7	51.9	51.7	31.0	46.2
道 南	37.8	26.8	41.9	38.2	42.4
函館	30.4	31.8	62.5	47.1	35.3
日胆	50.0	21.1	20.0	29.4	50.0
道 北	51.0	43.2	59.4	54.5	52.3
旭川	45.9	43.8	65.2	53.6	57.1
北見	66.7	41.7	44.4	56.3	43.8

販売単価（前年同期比）

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ	次期見通し
全 体	10.3	6.9	8.8	11.0	18.5
道 央	6.5	10.6	9.4	14.9	21.8
札幌	5.1	9.4	9.6	11.9	20.2
小樽	14.3	16.7	8.7	30.0	30.0
道 東	19.3	14.8	11.9	5.4	19.2
帯広	21.4	17.6	10.0	7.4	19.2
釧路	17.2	11.1	13.8	3.4	19.2
道 南	-2.6	-16.3	-9.4	-2.9	-3.0
函館	-4.2	-17.4	-5.9	5.9	5.9
日胆	0.0	-15.0	-13.3	-11.8	-12.5
道 北	20.4	7.0	18.8	18.2	25.0
旭川	13.5	3.2	21.7	10.7	21.4
北見	41.7	16.7	11.1	31.3	31.3

人手の過不足

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ
全 体	-53.8	-57.9	-59.3	-58.4
道 央	-49.7	-59.4	-63.1	-59.0
札幌	-51.2	-59.7	-65.0	-58.8
小樽	-40.9	-58.3	-54.5	-60.0
道 東	-61.4	-61.0	-64.9	-58.9
帯広	-58.6	-68.6	-66.7	-64.3
釧路	-64.3	-50.0	-63.0	-53.6
道 南	-55.0	-60.9	-57.6	-55.6
函館	-36.0	-65.4	-55.6	-63.2
日胆	-86.7	-55.0	-60.0	-47.1
道 北	-56.9	-45.5	-38.2	-58.1
旭川	-55.3	-45.5	-37.5	-44.4
北見	-61.5	-45.5	-40.0	-81.3

資金繰りの状況

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ
全 体	17.4	19.2	11.0	12.9
道 央	28.7	22.8	12.4	17.0
札幌	29.3	26.9	18.8	21.6
小樽	25.0	0.0	-15.0	-5.6
道 東	15.1	8.9	10.4	1.9
帯広	10.7	9.1	16.0	7.1
釧路	20.0	8.7	4.3	-4.2
道 南	-2.9	8.7	12.5	15.6
函館	9.5	15.4	18.8	17.6
日胆	-21.4	0.0	6.3	13.3
道 北	0.0	33.3	4.2	14.3
旭川	-6.7	32.3	11.8	30.0
北見	18.2	36.4	-14.3	-6.7

設備の過不足

	2018 Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ
全 体	-23.0	-18.6	-21.8	-25.2
道 央	-21.5	-15.2	-22.0	-26.1
札幌	-21.6	-17.4	-21.2	-25.0
小樽	-21.1	-4.3	-26.3	-31.6
道 東	-30.4	-29.5	-28.3	-30.9
帯広	-40.7	-37.8	-22.2	-33.3
釧路	-20.7	-16.7	-34.6	-28.6
道 南	-20.5	-11.1	-17.1	-21.2
函館	-12.0	-16.0	-31.6	-23.5
日胆	-35.7	-5.0	0.0	-18.8
道 北	-20.8	-21.7	-15.2	-18.6
旭川	-22.9	-23.5	-16.7	-14.8
北見	-15.4	-16.7	-11.1	-25.0